

中野区立図書館報 中野区の木の「しいの木」そして、図書館を表す「biblio」
それらをあわせてタイトルを「シイビブリア」としました

シイビブリア

VOL.
51

本の影響力

色々な意味で…怖い本

中野区立江古田図書館

江古田の獅子舞 いまむかし



seebiblia

中野区立図書館報
シイビブリア

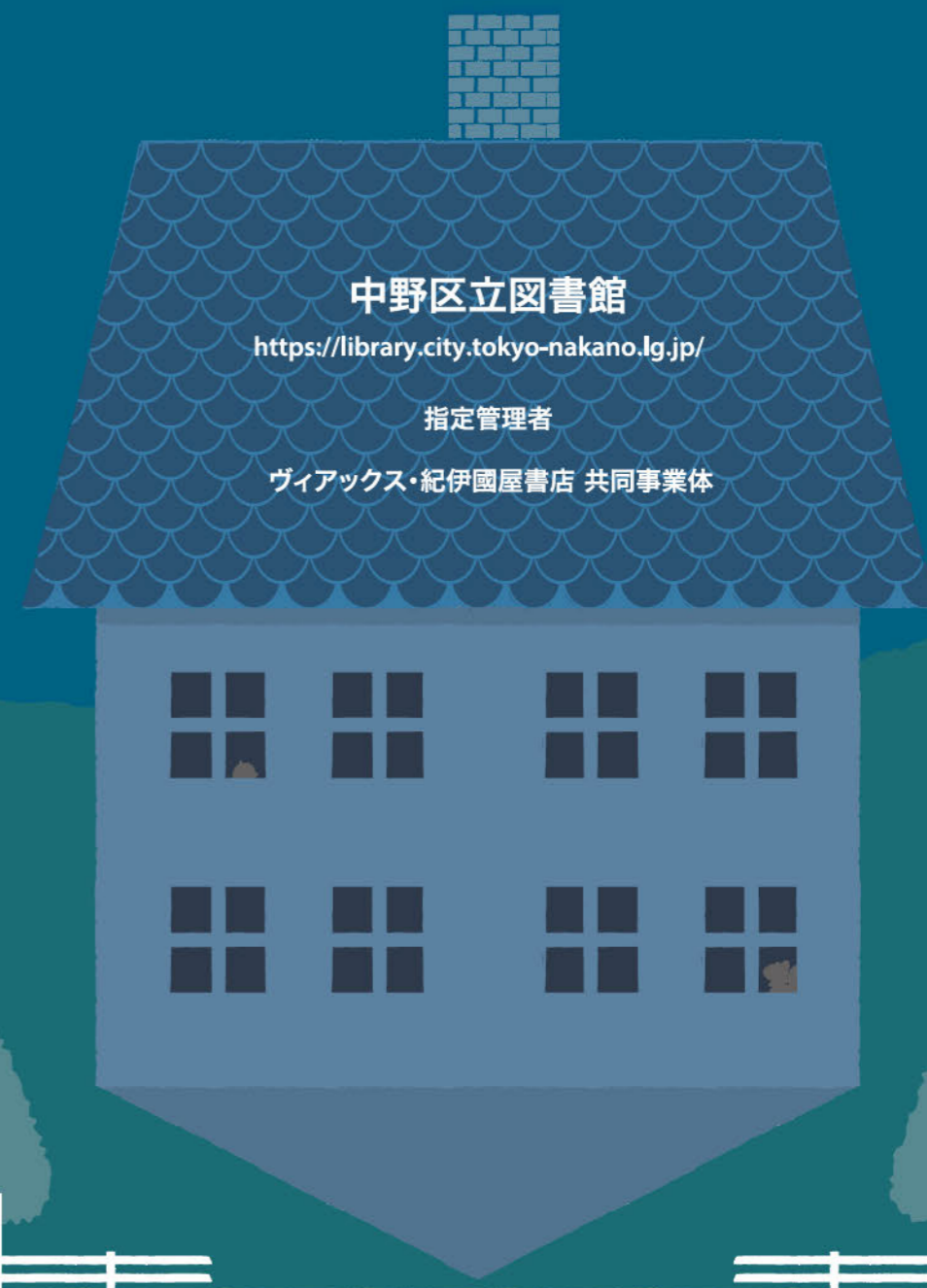
中野区立図書館報
シイビブリア vol.51

令和3年9月30日発行(隔月1回末日発行)
発行人 鈴木正実

〒164-0001 東京都中野区中野二丁目9番7号
発行 中野区立中央図書館シイビブリア編集部

ISSN 2187-9893

seebiblia



中野区立図書館

<https://library.city.tokyo-nakano.lg.jp/>

指定管理者

ヴィアックス・紀伊國屋書店 共同事業体



中野区認定観光資源
2014

seebiblia



インターネットの爆発的な普及により、本の存在意義が危ぶまれる、とよく言われる。わざわざ紙の本を手にとらなくても、ウェブ上の記事や電子書籍で様々な情報を手に入れるようになるようになったからだ。

そんな情報社会を生きるわたしたちだが、完全に紙の本と関わらない生活をしている人は案外少ないのではないだろうか。家には本棚があり、お気に入りの本が並ぶ。毎年恒例の文学賞はニュースに取り上げられベストセラーに。好きな本が出版されれば手に入るまで書店を巡り、流行りの漫画を貸し借りすることもあ

らう。内容は違って、誰しも思い出深い一冊があり、何かしらの影響を受けてきたことだろう。

ではここで改めて、「本」とは何かについて考えてみよう。

本は一言でいえば「道具」だ。物体としての本は紙の束を片側で綴じてまとめたシンプルな作りをしている。表面が基本的に平らで、積み上げることもできる。また、凝った装丁の本はそれ自体に価値が生まれ、世界中にコレクターがいる。

しかし、それが本という道具の本質とは言い難い。本とは、載っている文章や写真、絵を「読む」「見る」

ものであり、社会的な情報伝達の手段の一つだからだ。

そんな「本」が他の道具と一線を画すのは、あらゆるメタファー（隠喩）を生み出した点にある。アルゼンチンの大文豪ホルヘ・ルイス・ボルヘスは、人間が創り出した最も驚異的な道具として書物を挙げ、こう述べている。

「(書物以外の) 道具はいずれも人間の体の一部が拡大延長されたものでしかありません。(中略) しかし、書物は記憶と想像力が拡大延長されたものだという意味で、性格を異にしています」(※注1)

つまり、本は物体であると同時に、人間の精神であり、知覚でもある、特殊な道具だと指摘しているのだ。

本を読むことは一人の「人間」や「人生」に触れることと同じだとする考えや、我々が同じ本を通して、本が提供する夢を「共有」できるといった見方もある。こうしたメタファーは、本と人間が強固に結びついているからこそ生まれるものだ。



さて、この記事を読んでいるあなたにとって、本とは「何」だろうか。「愉しみ」、「財産」、それとも「自身の鏡」？ その答えは十人十色人の数だけ存在するだろう。

「本」は人間の文化の象徴、記憶やアイデンティティの塊であり、「手で触れられる精神のかたち」(※注2)だ。本が持つ言葉の力は、長きにわたり我々に様々な気づきを与え、新しい考え方へ導いてきた。

しかし、私たち市民が様々な本に親しめるようになったのはつい200、300年前のことである。それ以前、読書は限られたごく一部の人が嗜むものだった。

では、どのようにして読書は大衆へ広まっていたのか。人々が本に親しむまでの歴史を見ていこう。

読書の歴史

古代、人類が石版や動物の骨に文字や絵を刻んだその時から、本の歴史は幕を上げた。その後、石から紙へと何千年以上もの時間をかけて変化し、1455年、ヨハネス・グーテンベルクが発明した活版印刷術による印刷本が登場した【図1】。



【図1】グーテンベルクが制作した聖書の1ページ。装飾部分以外の文字をヨーロッパで初めて可動式活字で印字した。

それから50年も経たず、1501年にヴェネツィアのアルドゥス・マヌティウスという人物によって、今日見るようなポータブルな小型本が製作された。それ以前の本はかなり大型で、グーテンベルク聖書も含め凝った装飾画を手描きしていたため、完成に大変な労力と時間、費用がかかる高級品だった。そのため迅速な本の普及と実用性を目指したマヌティウスの小型本は、より多くの人々に本が親しまれる契機となった。その後18世紀後半の西欧世界では、いわゆる「読書革命」が起こった。印刷技術の進歩に伴い本の価格が下がり、教育による人々の識字率が上昇したこともあって、娯楽とし

ての読書が市民レベルに広まったのだ。かつては宗教書などジャンルも限られたものだったが、エンターテインメント要素を備えた小説、市民の生活に根付いたレシピ本やガイドブックなどの実用書が登場した。図書・新聞・雑誌など、様々な形態の書物が出版されたことも、購買層を広げたことに一役買った【図2】。



【図2】イギリスの新聞『タイムズ』。1788年12月4日付。

一方日本の出版産業は、江戸時代に武士階級から庶民へと裾野が広がり、出版する本の種類・量と共に読者数が大幅に増えた。大きな要因としては西欧と同じく教育(寺子屋)による識字率の上昇と、貸本屋の存在が挙げられる。貸本屋とはその名の通り、見料(購読料)をとって書物を貸す本屋のことだ。当時大衆向

けの娯楽本を多く取り揃えた貸本屋【図3】は大流行し、1808(文化5)年の記録では、江戸だけで650軒あったという。



【図3】竹杖為軽(たけぼうし)作『従夫以来記』(1784(天明4)年)に登場する貸本屋。世代に関係なく様々な人が利用していた。

一部の人のだけのものだった読書が、様々な印刷媒体を通して市民の日常に浸透した結果、本はより一層思想や情報を共有するツールとして、その能力を遺憾なく発揮するようになる。

しかし、個人の思想が生まれる環境が整うことに対し、権力者たちは

常に消極的だ。むしろ、思想を伝達する本が「有害」だとみなされた場合は、厳しい弾圧が行われることとなり、これは歴史上幾度となく繰り返されてきた。

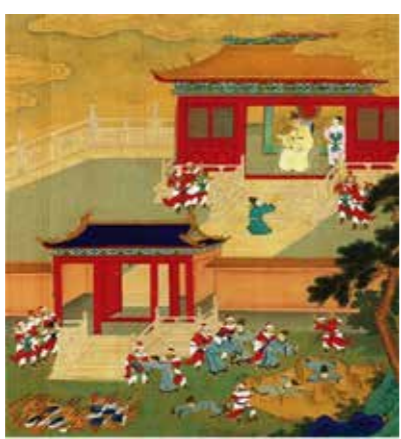
本の破壊と人間

本の歴史は、禁止と抑圧、受難の歴史であると言っても過言ではない。権力者たちは政治上の都合で邪道、もしくは不当とされた書物を禁圧することで、世の秩序を保持できると考えたのである。

あるいは、戦争において敵側の文化を滅し、民族的なアイデンティティ、情報を得る権利等を奪い屈服させるという意味でも、本の抑圧、破壊は非常に有効な手段だ。冒頭で述べたように、書物は単なる物体ではない。本は人々の記憶や文化の伝達という役割を担う。それが破壊されると言うことは、歴史を後世に伝える手段を失い、個人や共同体のアイデンティティ、人としての尊厳が破壊されるに等しい。

中国・秦王朝の「焚書坑儒」【図4】や、ルネサンス期のフィレンツェにおける「虚栄の焼却」、そして第

二次世界大戦時のナチス政権による「書物大虐殺」――本の破壊は世界中で無数の事例がある。現代においても、多くの本が焼却あるいは爆撃の対象とされ犠牲になっている。本以外のツールで知や文化の蓄積が可能になった現在でも、未だに人間にとつて精神の写し鏡たる存在であることに変わりない。それを攻撃することは、人々の心にダメージを与えらえる効果的な手段なのである。



【図4】中国の焚書坑儒を描いたもの。秦の始皇帝によって紀元前213年には書物が、翌年には儒学者たちが多く犠牲になった。

こうした悲劇は、実は私たちのすぐそばに潜んでいる。いつ何時、自分が加害者・被害者側になるとも限らない。本の破壊者たちは、共通し

た態度を示している。それは世の中の人間を「私たち(仲間)」と「彼ら(他者)」の二つに区別する傾向である。これがエスカレートすると、「私たち」以外は全員敵と見なすようになり、「彼ら」を攻撃し始める。インターネット社会が拡大し、簡単に世界中と繋がるのが出来る今、様々な考えや文化、風習に触れる機会も増えた。多様性を意味するダイバーシティという言葉が広まり、互いの違いを理解し受け入れることが、社会生活をより円滑にするという認識も生まれている。そんな中、未だ無意識のうちに「私たち」と「彼ら」という二つの世界に分断して物事を判断してしまうことはないだろうか。私たちは二分化された世界で敵を作るのではなく、柔軟で広い視野を持つべきだ。そんな時に私たちを助け導いてくれるのもまた「本」なのである。

様々な内容、分野の本を読み、あらゆる考えや文化を学び認めることは、必ず人生の糧になるだろう。自分なりに読書を楽しみつつ、本の存在意義、そしてそれが破壊される悲しみについて考えてもらえれば――人々が分かり合える未来に一步近づけるかもしれない。

参考文献

- ◎『国説本の歴史』 榊山紘一／編、河出書房新社、2011年 所蔵：中央
- ◎『本』 竹尾／編、平凡社、2011年 所蔵：中央
- ◎『読書と読者』 キャサリン・シールドリック・ロス(ほか)／著、川崎佳代子(ほか)／訳、京都大学図書情報学研究会、2009年 所蔵：中央
- ◎『世界を変えた100の本の歴史図鑑』 『デリック・ケイヴ(ほか)／著、大山晶／訳、榊山紘一／日本語版監修、原書房、2015年 所蔵：中央
- ◎『本の歴史文化図鑑』 マーティン・ライアンズ／著、蔵持不三也／監訳、三芳康義／訳、柘風舎、2012年 所蔵：中央
- ◎『身体としての書物』 今福龍太／著、東京外国語大学出版、2009年 所蔵：中央
- ◎『ヘーシック司書講座・図書館の基礎と展望10 図書・図書館史』 二村健／シリーズ監修、学文社、2014年 所蔵：中央
- ◎『江戸時代の図書流通』 長友千代治／著、仏教大学通信教育部、2002年 所蔵：中央
- ◎『書物の破壊の世界史』 フエルナンド・パエス／著、八重樫克彦(ほか)／訳、紀伊國屋書店、2019年 所蔵：中央・上高田・美鳩・中野第一・みなみのみ
- (※注1) 『語るボルヘス』 J・L・ボルヘス／著、木村栄一／訳、岩波書店、2017年、11頁より引用 所蔵：江古田
- (※注2) 『本』 竹尾／編、平凡社、2011年、23頁より引用 所蔵：中央
- 【図3】 国立国会図書館デジタルコレクションより引用 0647686/p07/q1pu/01u/0161pu/p77/scv



「怖い」という感情は、他の感情と比べて反射的に作用するものらしい。私たちが危険を回避するために、瞬時の判断が求められるからだ。今回はその「怖い」という感情に注目する。非現実的で怖いけれどちよつと笑えるものや、現実的だからこそゾクツクとしてしまう本を紹介する。



佐古文男/画と文、荒俣宏/監修、小学館、2018年、所蔵：江古田

非現実的で怖いものの定番と言え、幽霊やお化け、妖怪かもしれない。本書は、怖いはずの妖怪をポップにまとめた一冊だ。1000種類を超えると思われる妖怪の中から選ばれた80体が収録されており、妖怪ごとにクセの強さが5段階で表示されている。ぼそぼそしゃべるだけの地味すぎる2人組妖怪「川男」(クセの強さ1)、自分の芸がウケないと暴

れだす「五体面」(クセの強さ5)など、彼らの「クセ」の魅力がいっぱいだ。水木しげる氏とも親交のある、佐古文男氏のイラストとともにお楽しみあれ。



ロジャー・ラックハースト/著、福田篤人/訳、エクスマレッジ、2017年、所蔵：中央

本書によると、21世紀にゾンビは不死者(アンデット)界の好物に成りあがったらしい。かつてゾンビは、不死者界の吸血鬼やミイラなどの「ホラー映画界の高貴な不死者」と比べて下に見られていたようだ。それが今や映画やゲーム業界のみならず、テーマパークなどでの「ホラー担当」といえば、ゾンビが真っ先に挙げられる。近年日本でも行事として定着したハロウィンの仮装に、ゾンビを選ぶ人も見かけるようになった。このように、ゾンビは確実にその地位を揺るぎな

いものになっている。ゾンビは足取りがゆっくりで知性を持たないというイメージだ。それがある作品では走り、また別の作品では意識や知性を持つ…。ゾンビとは結局どういう存在なのだろうか。そんな謎多き彼らの「最強完全ガイド」に興味がある方は、一度手に取ってみてほしい。



竹書房、2014年、所蔵：鷺宮

自然の素晴らしさを感じる事ができる絶景は、ぜひ見てみたいものだ。だが、そこに危険が伴うならば話は別になる。

本書では、世界の危険な絶景を「高所」、「灼熱と極寒」、「異世界」、「廃墟」の4つの項目に分けて紹介している。ほとんどの場所は海外だが、「廃墟」の章で唯一日本のある場所が紹介されている。それは和歌山県にあ

る友ヶ島である。明治時代から軍事要塞が築かれていたこの島は、第二次世界大戦終結まで民間人の立ち入りが禁止されていた。当時は地図に載っていない場所である。明治後期の最新技術を駆使して作られた砲台が見どころだが、島への移動手段は限られ、飲用の水もない。また足元が悪い場所もあり、探索には十分な備えと注意が必要だ。

実際の場所に赴くには危険が伴う可能性がある。安全な場所ですべて書を楽しむのがおすすめである。



トマス・モリス/著、日野栄仁/訳、柏書房、2019年、所蔵：野方

日々医療は進歩しているが、治療法が確立していない時代には、現代では信じられない治療が施されていた。

本書は著者が多くの論文を読み、その中から選んだ奇妙でゾクとする

症例や治療を紹介した実話集である。1635年、あるプロセイン人の農夫が、胃のムカつきを解消するためナイフの柄で喉奥を刺激して嘔吐を誘発しようとした。そのうちに手を滑らせてしまい、ナイフは胃に到達してしまった。そこでナイフを取り出す手術が行われる。それは腹部の切開という方法だったが、患者の意識はある状態だったらしい。

このような話が多数掲載されているのだが、怖さだけでは終わらないのが面白い。それは読者が抱く気持ちを代弁するような著者の巧みな「ツッコミ」のおかげだ。

※プロセイン：現ポーランド北部からカリーニングラード州・リトアニアにかけて広がる地域



五十君静信/監修、誠文堂新光社、2015年、所蔵：上高田

毒は怖い。それは生物に害を与える物質だからだ。私たちの身近にある食べ物でも、食べるタイミングや調理法を間違えば毒となる場合がある。病気を治す薬もまた、用法用量を間違えると危険だ。

歴史を紐解くと毒にまつわるエピソードが多くある。例えば、かのクレオパトラ7世は毒に深い関心を持ち、さまざまな毒の効果を囚人で試していたという。その彼女が敵に追い詰められ自らを毒へびに噛ませた話は有名だ。また、古代ローマ人は酸っぱいワインを鉛の鍋で加熱すれば甘くなることを発見した。ワインの中の酸味成分が鉛と結びつき甘い成分に変化するのだが、有機鉛という有毒な化合物が生み出されている。古代ローマ人は知らずにそのワインを飲み、鉛中毒になっていた。

本書ではこれらの歴史上の出来事以外にも、項目別に毒について分かりやすく解説された「毒の入門書」である。



怖いけど行きたい!? お化け屋敷

お化け屋敷といえば、どのようなイメージを持つだろうか？ 火の玉が飛び墓場や幽霊などがいる場所を、自分の足や乗り物で回ったりする…そんなイメージが浮かんだ人もいるだろう。筆者はお化け屋敷が苦手だったため、自分で歩かなければならないときは怖そうな場所を避け、乗り物であれば目を閉じたままやり過ごした記憶がある。だが、この方法は最近のお化け屋敷には通用しないようだ。参加者がミッションを課せられるため、自ら怖い場所へと赴かざるを得ないという参加型ホラー・メイズに変化しているらしい。怖いものの好きの友人に誘われた際は覚悟が必要かもしれない。

参考文献

- 『「超常現象」を本気で科学する』 石川幹人/著、新潮社
- 2014年、所蔵：中央・江古田
- 『お化け屋敷になぜ人は並ぶのか』 五味弘文/著、角川書店
- 2012年、所蔵：中央
- 『お化け屋敷で化学する』 日本科学未来館/協力、扶桑社
- 2011年、所蔵：上高田
- 『お化け屋敷のつくり方』 平野ユレイ・齊藤ゾンビ/著、アールズ出版、2011年、所蔵：中央

※本誌の掲載内容・お知らせ情報は記事作成当時のものです。

江古田の獅子舞



いまむかし

皆さんは、江古田の獅子舞をご存じですか？

江古田の獅子舞は、江古田地区に古くから伝わる民俗芸能です。江古田氷川神社へ向かって獅子舞行列が町を練り歩き、神社では、獅子舞が笛や太鼓の音色に合わせて踊り、舞を奉納します。

江古田の獅子舞の起源は、鎌倉時代にまで遡ります。当時の江古田村には御嶽神社という神社があり、そこで獅子舞を行っていたのが始まりです。その後、御嶽神社や氷川神社を統括する別当という地位にあった東福寺で舞われるようになります。1913(大正2)年に氷川神社に地元の4つの神社が合祀されてからは、氷川神社で舞うようになりしました。

江戸時代、三代将軍家光公が江古田に鷹狩りに来たとき、東福寺で獅子舞を上覧した記録が残っています。東福寺には当時「御成りの間」が設けられていました。三代将軍上覧の由緒ある獅子舞ということから、祭礼の際には、幕府から特別に「御用」と書かれた高張提灯を掲げることが許されてきました。

1889(明治22)年には憲法発布の祝賀のために、靖国神社の神前で獅子舞を奉納したこともあります。その時に靖国神社から毎年例祭に奉納してほしいと申し出がありました。諸般の事情から継続して出演することはできませんでした。

こうした歴史や特色の貴重さから、江古田の獅子舞は、1982(昭和57)年に中野区無形民俗文化財に登録され、また2017(平成29)年には、東京都指定無形民俗文化財(民俗芸能)へと指定されました。

江古田の獅子舞は長い歴史と伝統を持った重要なものです。

そのため、獅子舞の研鑽保存、演舞の育成、文化芸能の継承を目的として、1969(昭和44)年に江古田獅子舞保存会が発足しました。

今回、江古田の獅子舞をより深く知るために、保存会の世話役をしている、深野さんと高崎さんより、お話を伺いました。

お二人について



深野さんは小学生の頃から獅子舞に参加していたベテランです。昔は獅子を被り、舞を披露していたこともあります。現在は舞と笛の指導に当たっています。



高崎さんは6年ほど前から保存会に参加しています。元々お父様が保存会で活動されていて、獅子舞は子どもの頃からよく見ていたそうです。獅子舞の文化財申請など、事務にまつわる仕事を主に担当されています。

江古田の獅子舞、ここが凄い！

江古田の獅子舞は女獅子・中獅子・大獅子と三頭の獅子が登場します。こうした三頭の獅子舞は各地にみられるそうですが、三頭とも大人が演じる一般的な獅子舞に対して、女獅子を小学生が演じます。また獅子のほかに周りのものが一緒に踊り舞うことなく、三頭の獅子だけの厳粛な舞であることも特徴といえます。

江古田獅子舞保存会の方から、お話を伺いました！



↑昭和の頃の獅子舞行列。大勢が参加する賑やかな様子は、当時も今も変わっていません。

参考資料：『江古田の獅子舞』（出版社不明、1970年、所蔵：江古田・中央・南台）
『ふるさと中野の民俗と行事』（中野文化センター郷土資料室／編、1977年、所蔵：全館）
江古田の獅子舞の資料は、図書館の地域資料コーナーにあるほか、中野区歴史民俗資料館にもあります。また、保存会で作成した貴重なDVDは、図書館で貸出が可能です。

江古田の獅子舞の伝統を継承していくために、保存会では獅子舞の後継者を募集しています。小学校の授業で、獅子舞の紹介をするなどの活動を行っています。なかなか舞子が集まらず、伝承していくことが一番の課題だそうです。獅子舞は約2週間の練習で踊れるようになるそうですよ。興味のある方は、参加してみませんか？

後継者募集中！

獅子舞をきちんと奉納するためにも、準備はとても大切です。隔年の本祭では約25日、例祭では約2週間かけて、獅子舞の稽古が行われます。今では社務所でやっていますが、昔は保存会の世話役の人が、御宿といって自宅を提供して、町会ごとに稽古をしていたそうです。獅子舞で何が大変なのかを深野さんに伺うと、とにかく毎年準備も稽古も大変とのこと。笛の稽古では、ひたすら実演してみせるため、終わる頃には疲れて首が回らなくなっているそうです。それでも獅子舞の時期が近付くと、「昔からの血が騒ぐ」と、保存会の皆さんが毎年楽しみにしているのが伝わってきました。

今も昔も準備は大忙し



獅子舞行列のルート



※この記事は江古田図書館が作成しました。

江古田の獅子舞は、毎年10月の第一土曜日の翌日(日曜日)に行われます。正午に獅子舞の行列が江古田1丁目の芳花園を出発し、約2時間かけて氷川神社を目指します。行列は、女獅子・中獅子・大獅子の三頭の獅子に加え、青龍・白虎・朱雀・玄武の四神の飾りをつけた人や、笛や太鼓などの演者が加わります。さらに山車や神輿もそれに続き、とても賑やかな行列が、氷川神社を目指して進んでいきます。氷川神社では、女獅子・中獅子・大獅子が神前で舞を奉納します。その後舞楽殿で舞を披露し、夜になるまで続けられます。また、隔年で本祭が行われ、その年は前日の土曜日に各町内を神輿や太鼓が先頭になって獅子舞行列をする「町内廻り」が行われます。



企画展示

中央図書館

『江戸の花だより』

「江戸の花」をテーマとして、関連資料を展示します。

展示期間：令和3年9月25日（土）～11月25日（木）

展示場所：中央図書館 地下1階

- ・正面玄関前ガラスケース
- ・大型図書コーナー



オバケなんてないさ
の巻



お知らせ

南台図書館・南台商店街連携企画

『本を借りて南台商店街に行こう！』

期間中本を借りた方に、商店街のオリジナルイラストマップをもれなく進呈！毎週金曜日には、商店街のお得情報が載っている特売チラシも配布します。

開催期間：令和3年9月25日（土）～10月28日（木）

場所：南台図書館

南台図書館・日本ヴォーグ社連携企画

『ご存知ですか！？（株）日本ヴォーグ社を！』

（株）日本ヴォーグ社と連携し、ヴォーグ社の関連書籍や、ハンドメイド作品を特集展示します。期間中本を借りた方に、ヴォーグ社本社内カフェテリアのサービス券を差し上げます。

開催期間：令和3年10月30日（土）～11月25日（木）

場所：南台図書館

※詳細は、南台図書館（03-3380-8661）までお問い合わせください。

次号予告

特集

・ありがとう！
本町・東中野図書館

vol.52 2021年11月末日 発行予定

※予告の内容は変更になる場合があります

編集後記

- ①本って不思議な存在だな、と改めて考えさせられました。(Ya.N)
- ②今回の図書館記事は、今まであためていた前任者の記事を復活させることができました！世に出せて本当に良かった…っ！！(S)
- ③今回はぞくぞくする本特集ということで、表紙・裏表紙や4コマも、ちょっぴりこわ〜い？雰囲気です。(Ya.M)
- ④4コマ参加させて頂きました！(N.M)

※本誌の掲載内容・お知らせ情報は記事作成当時のものです。

ブックカバーとして
ご利用いただけます

単行本 ↓

文庫本 ↓

中野区立鷺宮図書館
鷺宮三丁目22番5号
TEL 03-3337-1044

中野区立東中野図書館
東中野一丁目35番5号
TEL 03-3366-9581

文庫本 ↓

単行本 ↓

ブックカバーとして
ご利用いただけます

単行本 →

← 単行本

文庫本 →

← 文庫本

中野区立図書館報
シイビブリア

中野区立中央図書館
中野二丁目9番7号
TEL 03-5340-5070

みなみのライブラリー
弥生町四丁目27番11号
TEL 03-3381-7261

中野区立本町図書館
本町二丁目13番2号
TEL 03-3373-1666

美鳩ライブラリー
大和町四丁目26番5号
TEL 03-3330-8160

中野区立野方図書館
野方三丁目19番5号
TEL 03-3389-0214

中野区立南台図書館
南台三丁目26番18号
TEL 03-3380-2661

中野第一ライブラリー
本町三丁目16番1号
TEL 03-3372-8501

文庫本 →

← 文庫本

単行本 →

← 単行本

ブックカバーとして
ご利用いただけます

単行本 ↑

文庫本 ↑

中野区立江古田図書館
江古田二丁目1番11号
TEL 03-3319-9301

中野区立上高田図書館
上高田五丁目30番15号
TEL 03-3319-5411

文庫本 ↑

単行本 ↑

ブックカバーとして
ご利用いただけます